

樹勢回復へ治療開始／JR財田駅前のタブノキ

2012/09/03 09:35



タブノキの樹勢回復に向けた治療活動で、切り落とされ枯れ枝の片付け作業を行う参加者＝香川県三豊市財田町、JR讃岐財田駅前

香川県三豊市財田町のJR讃岐財田駅前にある香川の保存木、タブノキの樹勢回復に向けた活動が2日始まった。地域や駅のシンボルを守ろうと、木の保存活動を目的とした地元ボランティア団体らが、切り落とされた枯れ枝の撤去作業を手伝うなどして汗を流した。

同駅前のタブノキは、推定樹齢約700～800年で、樹高約9メートル、幹周りは約4・8メートル。1980年に香川の保存木の指定を受けたほか、市の天然記念物にもなっている。昨年7月、台風の影響で樹幹の一部が折れ、樹木医の診断を受けたところ、樹勢回復に向けた治療が必要とされた。

「このままタブノキを放置はできない」と、地元有志が今年3月、地域の老人会が中心に行っていた同木周辺の奉仕活動を引き継ぎ、「タブの木会」(重信厚会長、39人)を立ち上げた。

今回の治療活動は、NPO法人瀬戸内オリーブ基金の「大きな木プロジェクト」として実施。これから数年をかけ、タブの木会などが中心となり、樹勢回復に向けた活動を行っていく。

この日の作業には、タブの木会のメンバーやJR四国の職員ら約40人が参加。午前中に樹木医の指導のもと、造園業者が伐採した枯れ枝の片付けや搬送作業を行った。今後は、樹幹の折れを防ぐための支柱の設置作業や、木周囲に生け垣を造るなどの環境整備を行うことにしている。